

度管理調査と同様、県内の医療機関の多くが参加したサーベイランスを計画したが、微生物・抗菌薬コードが施設ごとに異なりシステム上、短期間に実現させることは困難であった。そこで、微生物検査室を設置しておらず1ヶ所の衛生検査所に細菌検査を外注している病院のうち、1ヶ月の件数が50件以上の施設を対象に本サーベイランス事業への参加協力をアンケート形式で募った。その結果、7つの病院の協力が得られた。サーベイランスのためのシステムは当院で使用している微生物検査自動機器のデータ処理オプションを基本にし、本事業用にソフト・ハードの追加と変更を行った。衛生検査所からは個人情報保護上、患者情報を削除したデータを毎月、フロッピーで受け取り、データ処理し各種細菌分離状況と抗菌薬感受性結果をカラー図表と結果に対するコメントをプリントアウトし各施設へ送付することとした。尚、一部の病院へは後日、希望によりメール送信した。サーベイランスの結果は定期的に委員会で報告し評価した。

■ 4) 先進施設の見学

事業の進め方と相談センターの業務内容を検討する目的で東北大学病院検査部感染管理室を見学し、賀来満夫教授をはじめ感染管理室のスタッフの長時間にわたる懇切丁寧な説明と助言をいただき、業務内容、地域ネットワークの仕組み等、センターの運営にとって大変参考になった。

■ 5) 広報活動

院内感染に関する相談に対応するため「香川県院内感染対策相談センターをご利用ください」という表題のパンフレットを作成し、県医師会、看護協会、薬剤師会、臨床衛生検査技師会に周知し、県内で開催される関連する勉強会、講習会、研究会、学会等でも配布した。当院のホームページにも事業内容を紹介しFAX相談用のPDF用紙を掲載した。

■ 6) 研修会・講演会

香川県では既に平成13年ごろから院内感染対策

に造詣の深い有志による院内感染研究会がいくつかあり講演会を開催しており、毎回200人前後の出席者がある。そこで本モデル事業では、事業立ち上げと相談に応じられるスタッフの養成を目的に日本大学医学部臨床検査医学講座の熊坂一成助教授の指導の下、「香川県における院内感染対策支援ネットワークの確立に関するワークショップ」を2回開催した。その後、相談センターに寄せられる相談を参考に年1回、当委員会委員による院内感染防止の基本的知識を伝達するための講習会を委員長の香川大学医学部 田港朝彦教授（現 医学部長）の司会で開催した。第1回は平成17年7月「これだけ知っておきたい院内感染対策の基礎知識」のテーマのもと、院内感染防止に必要な微生物の基礎知識（香川大学医学部附属病院検査部 根ヶ山 清）、感染防止のための基本手技（香川労災病院感染管理認定看護師 塚田由美子）、院内感染対策としての結核対策（香川県立中央病院内科 宮脇裕史）の講演を行った。第2回は平成18年6月23日「个人防护具（PPE）と消毒薬の効果的な使い方」をテーマとし、実習を含むPPEの正しい使い方（香川労災病院感染管理認定看護師 塚田由美子）、消毒薬の種類と用途（香川県立中央病院薬剤部 宮川真澄）、消毒薬の正しい使い方と感染対策の費用効果（坂出市立病院内科 中村洋之）の各講演を行った。

◆ 2. 事業の結果

■ 1) 委員会活動

これまで委員会は4回、開催され、相談事例とそれに対する回答の可否、相談件数を増やすための方策、サーベイランス結果報告と問題点、講演会内容の検討、講演会報告等を行った。尚、委員会は公開としたため、報道機関の傍聴、取材もあった。ただし、相談を受ける際、具体的な内容についてはネットワーク以外に公表しないことを条件にしているため、個々の相談事例については非公開とした。

■ 2) 相談件数と項目

現在、香川県内には病院が102、診療所が806

表3 相談事例の内訳

施設	件数	合計
病院	27	35
医院	3	
老人福祉施設	5	

職種	件数	合計
臨床検査技師	9	35
看護師	16	
医師	7	
その他	2	

相談項目	件数	合計
MRSA	5	35
疥癬	3	
ノロウイルス関連	2	
結核	2	
インフルエンザ	1	
院内感染防止委員会	1	
院内感染マニュアル	4	
感染対策ガイドライン	1	
気管内吸引	1	
手術室手洗い	2	
消毒	2	
消毒・廃棄	1	
紫外線照射	1	
廃棄物処理	1	
衛生管理	1	
環境整備	1	
ワクチン	2	
給食	1	
施設見学	1	
その他	2	

施設あり、病院以外に相談が寄せられる可能性がある特別養護老人ホームは75、老人保健施設は46施設ある。

当初、相当数の相談があると予想したが、上述のように種々の手段で広告したにも関わらず、FAX、メールでの相談は約2年間で35件と少なかった。相談内容項目、施設、職種は（表3）に示した。一

方、過去2回の講習会終了後のアンケート調査では、施設内の院内感染防止体制、知識と認識不足、リーダーシップに対する意見もあったが、全体で院内感染とその防止対策に関して最新の正しい情報を得る手段、方法が十分、浸透していないための疑問が比較的多かった。このため、講習会資料には感染対策に役立つホームページ一覧を掲載した（表4）。

表4 院内感染防止に役立つインターネットのホームページ

1. 国立国際医療センター (http://www.imcj.go.jp) Topics, 感染防止対策について	10. 特定非営利活動法人バイオクリーン・ラボ事務局ホームページ
2. 国立感染症研究所ホームページ → CDC, WHO, NIHヘリンク	11. 神戸大学医学部保健学科感染症学情報センターホームページ WHO 疫学週報トピックス（日本語訳）
3. 厚生労働省ホームページ（検索：院内感染防止） → 1, 5ヘリンク	12. 香川大学医学部附属病院ホームページ： 関連医療機関、医療者向け情報、感染対策システム
4. 日本感染症学会ホームページ	13. 香川県健康福祉部薬務感染症対策課「香川県感染症情報」 (http://www.pref.kagawa.jp/yakum_ukansen/kansenjyouhou.htm)
5. 日本環境感染学会ホームページ	14. 東京都福祉保健局医療政策部医療安全課 院内感染予防対策マニュアル（平成17年5月27日全面改訂版） (http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/ian/shidou/manual.html)
6. 吉田製薬ホームページ (http://www.yoshida-pharm.com)	
7. 日本医療機能評価機構ホームページ ダウンロード、自己評価調査票（Ver5.0）	
8. 日本看護協会ホームページ：感染管理に関するガイドブック (http://www.nurse.or.jp/sermon/kansen/index.html)	
9. ICN'S ROOM Infection Control Nurses (www.icnurse.com)	

（注：順不同、Yahoo、Google、go等を開きホームページ名を入力しても表示されます）

■ 3) サーベイランス

分離微生物の種類、抗菌薬感受性結果ともに施設間差が大きく、また同一施設内でも月毎に差がみられた。これは、対象にした病院が7施設と少ないこと、各施設で対象患者要因の違い、微生物検査月件数が50～100件と比較的少ないこと等に起因していると考えられる。今後十分な解析が必要である。

■ 4) 研修会

第1回の研修会へは91施設、258名が参加された。職種別では看護師119名、臨床検査技師61名、医師29名、薬剤師17名、保健師11名、事務職7名、その他14名であった。アンケート回収は140件(54%)であり、この中には相談事例もみられ、相談件数を増やす方法として、研修会や講演会等でのアンケート調査も有効であると思われた。

◆ 3. 事業の問題点と今後の課題

他地域のモデル事業でも、相談件数が当初の予想に反して少ないといわれている。その原因は自施設、組織の問題点、認識や知識不足を公的な立場の相談センターに知られたくないという意識が働いている可能性も否定できない。実際、講習会のアンケートの

中に、院内感染対策の見直しや実施をしたいが、個人病院ではなかなか理解してもらえず困っている、院内感染防止に対する意識が職員によって偏りがある、最新情報の周知や講義が必要、との意見もあった。これらのことから今後、相談事例を増やす前にあらゆる機会を捉えて、院内感染とその対策に関するエビデンスに基づいた最新の正しい知識の啓蒙、さらに、このような情報をどこでどのように入手すればよいか本事業全体でデータベース化する必要がある。

香川県における本事業のもう一つの柱であるサーベイランスのこれまでの結果から考えられることは、今後、菌名、抗菌薬コードを統一し、参加施設を増やし、地域の特性とそれぞれの施設の特徴や問題点が把握できるようにすることである。これにより、院内感染防止だけでなく、感染症診療そのものの質が向上するものと思われる。

著者連絡先

桑島 実 (Minoru KUWAJIMA)

香川県院内感染対策相談センター長 (香川県立中央病院副院長兼中央検査部長)

〒760-8557 高松市番町五丁目4-16

Tel: 087-835-2222(代) / Fax: 087-836-9581

e-mail: kansenq@fancy.ocn.ne.jp

第1回

香川県における院内感染対策支援ネットワークの 確立に関するワークショップ

平成16年3月25日(木) 14:00~17:00
香川県立中央病院南館10階会議室

資料目録

1. 香川県における院内感染対策支援ネットワーク事業とワークショップの開催について
2. 参加者名簿
3. プログラム
4. ワークショップとは
5. 文殊カードとK-J法
6. [セッション2] 今後のワークショップの計画は
目標の設定と組織化
7. 教育目標の持つべき性格 RUMBA
8. 香川県立中央病院の基本理念
9. ご挨拶(香川県立中央病院長 平川方久) 病院ホームページより
10. 患者様の権利

香川県院内感染対策地域支援ネットワーク事業とワークショップの開催について

ワークショップ・ディレクター 桑島 実

香川県では、平成16年度から院内感染対策地域支援ネットワーク事業を開始することになりました。

この事業は、主にICTやICD又はICNなどのスタッフがいない中小の医療機関における院内感染を予防するため、院内感染に関する相談窓口として香川県院内感染対策相談センターを設置し、医療機関が院内感染予防等について日常的に相談できる体制を整備するとともに、地域の医療機関の専門家等で構成する香川県院内感染対策支援委員会(委員会)を開催し、地域における院内感染対策の支援体制を構築することを目的にしています。本事業の実施主体は香川県ですが、事業目的の達成のために、県は業務を香川県立中央病院に委託することになりました。

香川県立中央病院に設けられた香川県院内感染対策相談センター(センター)では、院内のICTおよびそのリンクナース等のスタッフが県内医療機関からの院内感染に関する相談に対応できるように整備を進めているところです。事業の開始は平成16年4月1日(木)でセンターの開設場所は香川県立中央病院検査科微生物検査室とし、相談方法はFAX(087-836-9581)または電子メールとします。(電子メールアドレス:kanseng@fancy.ocn.ne.jp)

相談を希望する医療機関は専用の相談事例記入用紙(希望に応じ配布)に相談内容を記入し、センターへ送り、スタッフが質問に対する回答を用紙に記入し返送することにしてあります。院内での対応が困難な質問事例については委員会のメンバーに意見を求め、さらに問題事例は国立感染症研究所や国立国際医療センターへ助言を求める体制も整備する予定です。

以上のような体制の整備に加え、この事業で最も大切なのは、院内感染防止対策に対する相談に対する的確に答えることができ、指導できるスタッフを養成することです。

そこで、今回、医学教育技法に関し、豊富な経験と実績を持ち、尚且つ臨床微生物学、院内感染防止に造詣の深い、熊坂一成先生(日本大学医学部臨床検査医学講座助教授)のご指導の下、日頃、院内感染防止に活躍されているICTおよびそのリンクナース、薬剤師、臨床検査技師の方々が院内感染対策ネットワークの中核メンバーとして、適切な現場の教育指導ができることを目的にワークショップを企画しました。

今回のワークショップで参加される皆さんの実力がより一層、向上することを期待しております。

目的：香川県における、院内感染防止ネットワークを確立する中核メンバーが、院内感染防止教育カリキュラムの開発に適切に対応できるようになるための、教育研修事業として開催されます。

対象者（参加資格者）：ごく近い将来に、香川県における、院内感染防止ネットワークを確立するのに必要な各職種からなる中核メンバーとなる予定者
(約20名)

研修方法：レクチャーの時間は最小限にして、少人数に分かれ実際に作業をしていただきます。院内感染防止教育カリキュラムの開発に必要な教育の基本を身につけることを共通の目標にし、現状の問題点の抽出と分析、多くの制約事項の有る中での具体的な教育カリキュラムの意義を考え、現実的な教育目標の設定、実践的な教育戦略の立案方法そして科学的評価方法が体験的に学習できます。

今回のワークショップでは、時間的制約から、香川県における院内感染防止ネットワークを確立するための問題点の抽出と分析まで行い、教育目標、教育戦略、評価方法に関するワークショップは、後日、計画することにします。

ワークショップ（WS）スケジュール概略

(一部変更になることがあります。)

3月25日(木)

午後02:00 開会のご挨拶と事務連絡

桑島 実ディレクター

午後02:05 アイスブレイキング(自己紹介)

熊坂一成TF

参加者：看護師20名、薬剤師3名

臨床検査技師1名 合計24名の予定(8人×3グループ)

セッション 1

午後02:25 WSとはなにか。

熊坂一成TF

午後02:35 文珠カードによる

” ”

『香川県における、院内感染防止ネットワークを確立』の
問題点の発見を中心に

午後02:45 グループ別作業開始 (3グループ)

午後04:00 グループ別作業結果

司会 熊坂一成TF

(プロダクト)発表

午後04:45

プロダクト発表終了

プロダクト全体に対するコメント

熊坂一成TF

午後04:55

閉会の辞

桑島 実ディレクター

教育目標、教育戦略、評価方法に関するワークショップ
(セッション2～3)は、後日、計画することにします。

セッション 2-1

約1時間

目標の設定と組織化
グループ別作業開始 (3グループ)
グループ別作業中間報告発表

セッション 2-2

約4時間

理念と目的、目標、GIOとSBOsの再確認
グループ別作業
および結果(プロダクト)発表

セッション 3

約4時間

LS(教育戦略)とEV(評価)
グループ別作業
および結果(プロダクト)発表

第2回
香川県における院内感染対策支援ネットワークの
確立に関するワークショップ

プログラム

期 日 : 平成16年9月11日(土)
10:00~17:00

場 所 : 香川県立中央病院南館10階会議室

主 催 : 香川県院内感染対策相談センター

後 援 : 香川県立中央病院・香川県

ワークショップ実行委員会

チーフ・プランナー	熊坂一成	日本大学臨床検査医学講座助教授
ディレクター	桑島 実	香川県立中央病院副院長
オブザーバー	上田 裕	香川県立中央病院内科
現地事務局統括責任者	白石 功	香川県立中央病院庶務課主査
チーフ・タスクフォース(兼任)	熊坂一成	
タスクフォース	金山智子	香川県立中央病院看護部師長*
タスクフォース	宮川真澄	香川県立中央病院薬局副主幹*
タスクフォース	平内美仁	香川県立中央病院中央検査部主査

* : ICT

平成16年9月11日(土) 10:00~17:00 開催 於 香川県立中央病院南館10階会議室
主催: 香川県院内感染対策相談センター 後援: 香川県立中央病院・香川県

第2回
香川県における院内感染対策支援ネットワークの確立に関する
ワークショップ参加者

セッション1

第1グループ

小西佐登美	香川県立中央病院看護部N3
白石真理子	香川県立中央病院看護部N9
吉田貴美子	香川県立中央病院看護部S6
仲川 三春	香川県立中央病院薬剤部
都村いつこ	身障者総合リハビリテーションセンター医療センター薬剤師

第2グループ

村井 由佳	香川県立中央病院看護部S3
星久保英子	香川県立中央病院看護部腎センター
永井 信子	香川県立中央病院看護部S8
児嶋 寿代	香川県立中央病院薬剤部
林 珠美	香川県立白鳥病院看護部

第3グループ

篠原 公子	香川県立中央病院看護部中央滅菌材料室
早瀬 美智	香川県立中央病院看護部N7
大谷 宏美	香川県立中央病院看護部S4
福田千恵美	香川県立中央病院中央検査部微生物検査室
鍋坂やよい	香川県立津田病院看護部

目的：香川県における、院内感染防止ネットワークを確立する中核メンバーが、院内感染防止教育カリキュラムの開発に適切に対応できるようになるための、教育研修事業として開催されます。

対象者（参加資格者）：ごく近い将来に、香川県における、院内感染防止ネットワークを確立するのに必要な各職種からなる中核メンバーとなる予定者
(約20名)

研修方法：レクチャーの時間は最小限にして、少人数に分かれ実際に作業をしていただきます。院内感染防止教育カリキュラムの開発に必要な教育の基本を身につけることを共通の目標にし、現状の問題点の抽出と分析、多くの制約事項の有る中での具体的な教育カリキュラムの意義を考え、現実的な教育目標の設定、実践的な教育戦略の立案方法までが体験的に学習できます。

前回のワークショップでは、時間的制約から、香川県における院内感染防止ネットワークを確立するための問題点の抽出と分析まで行いました。

今回は、院内感染防止ネットワークを確立するための、教育目標、教育戦略の立て方に関して、皆様とご一緒に考えましょう。

ワークショップ（WS）スケジュール概略

(一部変更になることがあります。)

9月11日(土)

午前10:00 開会のご挨拶と事務連絡 桑島 実ディレクター

午前10:05 アイスブレイキング(自己紹介) 熊坂一成 TF
参加者：看護師12名、薬剤師3名、臨床検査技師1名 計16名
(6~5人×3グループ)

セッション 1

午前10:25 WSとはなにか。(再確認) 熊坂一成 TF

午前10:35 解説
2元配置法による問題点の抽出と目標の立て方 熊坂一成 TF
一般目標と行動目標そしてRUMBAの原則 " "

午前10:55 グループ別作業開始 (3グループ)
『香川県における、院内感染防止ネットワークを確立』の
問題点の整理と教育目標の立案を中心に

午後11:55 グループ別作業中間発表 司会 熊坂一成 TF
発表5分以内、質疑応答3分以内

午後00:20 昼食

- 午後01:10 グループ別作業開始
- 午後02:00 プロダクト作業発表
発表5分以内、質疑応答3分以内
- 午後02:30 休 息
- 午後02:40 解 説
教育戦略
- 午後02:50 グループ別作業開始 (3グループ)
『香川県における、院内感染防止ネットワークを確立』のための
教育戦略プランニングの実際
- 午後04:15 グループ別作業プロダクト発表 司会 熊坂一成TF
発表5分以内、質疑応答3分以内
- 午後04:45 プロダクト作業発表終了
プロダクト全体に対するコメント 熊坂一成TF
- 午後04:55 閉会の辞 桑島 実ディレクター

備考

前回ワークショップ (WS) スケジュール概略

3月25日 (木)

- 午後02:00 開会のご挨拶と事務連絡 桑島 実ディレクター
- 午後02:05 アイスブレイキング (自己紹介) 熊坂一成 TF

セッション 1

- 午後02:25 WSとはなにか。 熊坂一成 TF
- 午後02:35 文珠カードによる " "

『香川県における、院内感染防止ネットワークを確立』の
問題点の発見を中心に

- 午後02:45 グループ別作業開始 (3グループ)
- 午後04:00 グループ別作業結果 司会 熊坂一成TF
(プロダクト) 発表
- 午後04:45 プロダクト作業発表終了
プロダクト全体に対するコメント 熊坂一成TF
- 午後04:55 閉会の辞 桑島 実ディレクター

香川県院内感染対策支援ネットワーク事業
院内感染対策講習会講演資料集

これだけは知っておきたい院内感染対策の基礎

日時：平成17年7月15日（金）18：30～20：45

会場：香川県社会福祉総合センター1階 コミュニティホール

司会 香川県院内感染対策支援委員会委員長
(香川大学医学部臨床検査医学教授) 田港 朝彦

18：35～19：15

演題1 院内感染防止に必要な微生物の基礎知識

香川大学医学部附属病院検査部副技師長 根ヶ山 清

19：20～20：00

演題2 感染防止のための基本手技

香川労災病院安全情報管理室

感染管理認定看護師 塚田由美子

20：05～20：45

演題3 院内感染対策としての結核対策

香川県立中央病院内科部長

宮脇 裕史

- 参考資料1 厚生労働省 医療施設における院内感染の防止について
2 研究報告書「医療施設における院内感染（病院感染）の防止について」
3 香川県院内感染対策相談センターをご利用下さい
4 センターへのFAX相談用紙
5 院内感染防止に役立つインターネットのホームページ

主催

香川県立中央病院中央検査部微生物検査室内

香川県院内感染対策相談センター

病院代表電話 087 - 835 - 2222

センター専用FAX 087-836-9581

センター専用E-mail: kansenk@fancy.ocn.ne.jp

香川県院内感染対策支援ネットワーク事業
第2回院内感染対策講習会資料集

個人防護具（PPE）と消毒薬の効果的な使い方

日時：平成18年6月23日（金）18：20～20：50
場所：香川県社会福祉総合センター1階 コミュニティホール
高松市番町1丁目10-35 電話：087-835-3334

18:20～18:30 オリエンテーション

司会 香川県院内感染対策支援委員会委員長
香川大学医学部長 田港 朝彦

18:30～19:20

演題1 個人防護具（PPE）の正しい使い方
香川労災病院安全情報管理室
感染管理認定看護師 塚田由美子

19:20～19:40

演題2 消毒薬の種類と用途
香川県立中央病院薬剤部副主幹 宮川 真澄

<休憩 10分>

19:50～20:30

演題3 消毒薬の正しい使い方と感染対策の費用効果
総合病院坂出市立病院内科診療部長 中村 洋之

20:30～20:50

質疑応答・総合討論

参考資料

香川県院内感染対策相談センター案内
センターへのFAX用相談用紙
院内感染防止に役立つインターネットのホームページ

香川県立中央病院中央検査部微生物検査内
香川県院内感染対策相談センター
病院代表電話 087-835-2222
センター専用FAX 087-836-9581
E-mail: kanseng@fancy.ocn.ne.jp

院内感染地域支援ネットワーク と微生物検査室の役割

臨床検査部会長

桑島 実

様々な耐性菌の出現や重大な院内感染事例の増加が社会問題となり、平成15年9月、厚生労働省は「院内感染対策有識者会議報告書」を発表した。その内容を具体化するものの一つとして全国8ヶ所で「院内感染地域支援ネットワーク」モデル事業がスタートする（朝日新聞2003/11/19）。その概要は、自治体を単位として院内感染に関する専門家による相談窓口を設置し、中小病院や診療所等からの院内感染対策等に関する相談に日常的に対応すると同時に、関係機関と連携し、地域における院内感染対策の支援体制を構築するというものである。すでに平成4年より、厚労省支援のもと、抗生物質感受性状況調査が全国の300床以上の360近い病院で実施されており、平成12年からは科学的根拠に基づいた院内感染対策の推進を目的に院内感染対策サーベイランス事業が進められている。これらのサーベイランス事業は今のところ、定点調査だが、「院内感染地域支援ネットワーク」モデル事業は地域単位に点を面に広げられる可能性を秘めている。相談窓口としての機能だけでなく、各医療機関の微生物分離状況や抗菌薬感受性結果などの情報を収集、解析し科学的根拠に基づいた院内感染対策に役立てることが出来る。第4次医療法改正では、微生物検査を含む検体検査は病院の必置規制緩和の対象になり、診療報酬も低く抑えられたままであり、微生物検査への法的、経済的支援は十分とはいえない。さらに昨今は検査部門自体のアウトソーシングも広がりつつある。このような状況であるからこそ、各地の自治体病院の検査部門、とくに地域住民を感染症から守る役割も担っている微生物検査室は、その存在意義を更に高めるため、先に述べたモデル事業に限らず、地域全体の院内感染防止支援に積極的に参画すべきである。また、地域内医療施設の微生物関連情報の解析支援は病診連携の一助となり、地域医療費の効果的活用にも貢献するであろう。

（香川県立中央病院副院長 くわじま・みのる）

10) 鹿児島県

平成18年度「院内感染防止対策地域支援事業」活動状況と問題点調査

1. 設置場所：(社) 鹿児島県医師会
2. 相談形式：FAX、インターネット
3. 相談業務の開始時期：平成16年3月22日
4. 相談時間：月曜から金曜日までの9：00～17：00（但し、祝日等を除く）
窓口担当者：無（FAXの内容は、県医師会地域保健医療課職員が入力）
5. 相談対応者の数と所属：4人
所属：鹿児島大学（年度途中で個人診療所開業）、鹿児島市立病院、
鹿児島医療センター（ICD・ICN1名ずつ）
6. これまでの相談件数、主な内容：別紙のとおり
7. 相談対象施設の種類と件数：種類は医療機関、件数は別紙のとおり
8. その他の活動に関して：相談員との連絡調整会議の開催（1回）、
講演会（1回）、インターネットによる相談・支援
システムの改善
9. 相談件数を大幅に増やす対策に関する意見：県医師会FAXニュース、会
報等による広報の充実
10. 予算措置に関しての具体的な希望
11. その他ネットワークに関しての希望やご意見
12. 平成19年度からの事業化に向けて必要と思われる事項

※項目10～12について、平成18年度から県医師会の単独事業となった。相談員の人件費、運営についての補助を頂きたい。

※その他：平成19年度から相談員を5名（ICD1名、ICN3名、ICP1名）増員予定である。

相談実績について（平成 15 年 3 月～平成 19 年 1 月末）（鹿児島県）

(1) 年度別相談件数

年度	件数	相談方法		摘要	
		インターネット	F A X		
					うち簡易掲示板
15	2	1		1	相談窓口の設置 H16.3.22
16	23	9	4	14	
17	11	1		10	
18	8	1		7	
計	44	12	4	32	

(2) 相談方法及び相談内容

年度	月	件数	相談方法		相談内容
			インターネット	F A X	
15	3月	2	1	1	・手術室を含めた院内環境の清掃、消毒法について ・針刺し事故への対応について
	小計	2	1	1	
平成 16 年 度	4月	2	0	2	・MRSA感染患者への処置対応について ・妊婦等に対する風疹流行時の対処法について
	5月	4	3 (1)	1	・MRSA陽性（少数）患者についての対応（保菌者か、定着者か、発病者か） ・院内より黄色ブドウ菌が検出された場合の対応、消毒方法について ・針刺し事故への対応について ・三方活栓使用による感染症データ及び感染症予防キットの内容について
	6月	1	0	1	・MRSAとMSSAとの違いと、それぞれの隔離方法及び予防対策について
	7月	1	1	0	・MRSA対策について
	8月	3	0	3	・セラチア菌、変形菌、MRSA菌が検出される患者への今後の管理、看護の対処法 ・MRSAを含む感染予防対策について ・緑膿菌感染者の対応について
	9月	1	0	1	・MRSAの対応について
	10月	2	1	1	・職員の院内感染対策について ・消毒法について
	11月	0	0	0	
	12月	1	0	1	・疥癬について
	1月	1	1	0	・消毒法について
	2月	1	0	1	・手術室での手洗いについて

年	月	件数	相談方法		相談内容
			インターネット	F A X	
平成 16 年度	3月	6	3 (3)	3	・T Bのガウンテクニックについて ・病院での消毒法について ・マニュアル作りに関して ・老健施設対応の基本的な感染制御マニュアルについて ・消毒効果（殺菌）について ・疥癬について
	小計	23	9	14	
平成 17 年 度	4月	1	0	1	・ゴーグル、手袋の消毒法について
	5月	2	1	1	・リネンの一次消毒について ・抗体価検査とワクチン接種の具体例について
	6月	0	0	0	
	7月	3	0	3	・手洗いについて ・細菌の遺伝子解析について ・ネブライザーへの水道水使用について
	8月	1	0	1	・・抗生剤の手術時使用について
	9月	1	0	1	・MRSA（尿(+)喀痰(+))患者の自己導尿管管理について
	10月	1	0	1	・結核患者退院後について
	11月	1	0	1	・ヘシウム菌への消毒法について
	12月	0	0	0	
	1月	1	0	1	・MRSAの患者さんへの消毒法について
	2月	0	0	0	
	3月	0	0	0	
小計		11	1	10	
平成 18 年 度	4月	0	0	0	
	5月	1	0	1	・感染症の患者の入浴について（消毒法等）
	6月	1	0	1	・HCV、HIV、HBV、HTLVの感染症について
	7月	0	0	0	
	8月	2	0	2	・経管栄養点滴セットの交換について ・HTL-1感染症対策、消毒法について
	9月	0	0	0	
	10月	2	1	1	・芽胞を持つ細菌について ・外部委託する寝具類の消毒について
	11月	1	0	1	・加湿器の消毒について
	12月	0	0	0	
	1月	1	0	1	・針刺し事故・血液暴露の対応について
小計		8	1	7	
合計		44	12	32	

(注) () は簡易掲示板で再掲

院内感染防止地域支援ネットワーク事業3年間の実績

1) 講演会

平成15年度（相談窓口設置 H16. 3. 22）、委託契約 H15.12.24

参加者数 650名

会期：平成16年3月30日（火）19：00～20：45

会場：鹿児島県医師会館

内容：①基調講演

「国・自治体ネットワークの院内感染対策技術支援」

講師：国立国際医療センター研究所

副所長 倉辻忠俊氏

②相談システム等事業概要の説明

③院内感染防止Q&A

院内感染防止の専門知識を有する感染制御医師（ICD）及び感染管理看護師（ICN）とのディスカッション

平成16年度・・・696名参加

【鹿児島会場】

参加者数 520名

会期：平成17年3月11日（金）19：00～20：30

会場：鹿児島県医師会館

内容：①基調講演

「いまさら聞けない感染管理の常識患者さんのための感染対策とは？」

講師：独立行政法人国立病院機構

名古屋医療センター 感染制御対策室

院内感染管理者 藤田 烈氏

②院内感染防止Q&A

【大隅会場】

参加者数 176名

会期：平成17年3月25日（金）19：00～20：30

会場：ホテルさつき苑（鹿屋市）

内容：①基調講演

「洗浄・消毒・滅菌どうしてますか？」

講師：独立行政法人国立病院機構

九州循環器病センター 副看護師長

（感染管理看護師）吉満桂子氏

②院内感染防止Q&A

平成17年度・・・508名参加

【鹿児島会場】

参加者数 430名

会期：平成18年3月29日（水）18：30～20：15

会場：鹿児島県医師会館

内容：①基調講演

「効果的な感染管理をめざして」

－看護師の立場でできること－

講師：済生会熊本病院 TQMセンター

感染管理認定看護師（ICN）

家入裕子 氏

②院内感染防止Q & A

【奄美会場】

参加者数 78名

会期：平成18年3月2日（木）18：30～20：15

会場：奄美観光ホテル

内容：①基調講演

「病院感染対策はどうしてですか？」

講師：独立行政法人国立病院機構

九州循環器病センター 副看護師長

感染管理認定看護師（ICN）

吉満桂子 氏

②院内感染防止Q & A

2) 院内感染Q & Aの質問数

平成15年度⇒ 2件（インターネット1件、FAX1件）

平成16年度⇒ 23件（ ” 5件、 ” 14件、簡易掲示板4件）

平成17年度⇒ 11件（ ” 1件、 ” 10件）

計 36件

→回答を作成していない針刺し事故2件、マニュアル作り1件含む。

3) 質問内容；

MRSAに関するもの・・・11件

消毒に関するもの・・・12件

疥癬に関するもの・・・2件

その他・・・11件（無回答3件含む）